

有害プランクトン情報

(令和元年度 - No. 4)

千葉県水産総合研究センター
東京湾漁業研究所・生産技術研究室
千葉県農林水産技術会議

水産総合研究センターは東京湾でプランクトン調査を行っています。プランクトンの種類や密度によっては、魚類や二枚貝などに影響を与えるので、毎月1回有害プランクトンの出現状況をお知らせします。

○ 調査日	沖合	7月 第1回	内湾 (8地点)	7/1	内房 (7地点)	7/2	
		7月 第2回	内湾 (8地点)	7/17	内房 (7地点)	7/18	
		7月 第3回	内湾 (8地点)	7/30			
	貝類漁場内	銚子 7/3	九十九里 7/2, 9, 16, 22	千葉北部 7/9, 24	木更津北部 7/23	木更津南部 7/7, 21	富津 7/10, 24

【有害プランクトンの出現状況】

- シャットネラ属の最高細胞密度は7/2に富浦で0.05細胞/mL、ヘテロシグマ属の最高細胞密度は7/17に羽田沖で17.20細胞/mLでした。シュードシャットネラ属、カレニア属は確認されませんでした。
- 赤潮(透明度1.5m以下、pH8.5以上、酸素飽和度150%以上)は第2,3回に内湾で確認されました。
※ シャットネラ属は1細胞/mL、ヘテロシグマ属は1000細胞/mL、カレニア属は100細胞/mLを超えた場合に注意報を発出します。

【貝毒プランクトンの出現状況】

- 麻痺性貝毒原因プランクトンの最高細胞密度は、アレキサンドリウム カテネラが7/2に一部の貝類漁場で0.30細胞/mLでした。なお同種は5/13に一部の貝類漁場で45.20細胞/mLまで増加しましたが、この時の貝類検体から麻痺性貝毒は検出されませんでした。
- 下痢性貝毒原因プランクトンの最高細胞密度は、ディノフィシス アキュミナータが7/17にアクア南で1.65細胞/mLでした。なお同種は5/7に船橋で18.125細胞/mLまで増加しましたが、被害情報はありませんでした。他種はディノフィシス ロツンダータが7/1に盤洲北で0.35細胞/mL等でした。

(貝毒情報は千葉県農林水産部水産局漁業資源課のホームページに掲載)

○ 各海域で見られたプランクトンの優占種

- | | | | | |
|------|----|------|--------------------|--|
| 7/1 | 内湾 | 渦鞭毛藻 | プロロセントラム | ミカンス (図1),
プロトペリディニウム属
珪質鞭毛藻 エブリア属 |
| 7/2 | 内房 | 渦鞭毛藻 | プロロセントラム | ミカンス
珪藻 キートセロス属 |
| 7/17 | 内湾 | 珪藻 | スケルトネマ属 (図2) | |
| 7/18 | 内房 | 珪藻 | スケルトネマ属 | |
| 7/30 | 内湾 | 珪藻 | スケルトネマ属, シュードニッチア属 | |



図1 プロロセントラム ミカンス (7/1 アクア北)

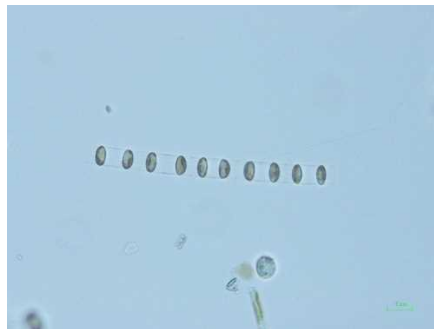


図2 スケルトネマ属 (7/17 盤洲南)

